庭木に発生したコガネムシの防除

問　この春，庭のオンコを移植したとき，根の間に白い虫が沢山いました。長さは約2cm，体は湾曲し細長い足がありました。どんな虫でしょうか。　（岩見沢市　K生）

答　ナガチャコガネの幼虫です。この幼虫は土の中で木や草の根を食い荒し，数が多いと木を枯らしてしまいます。しかし成虫，幼虫とも目にふれにくい害虫ですので，自分の庭に沢山発生していても気がつかないことが多いと思います。

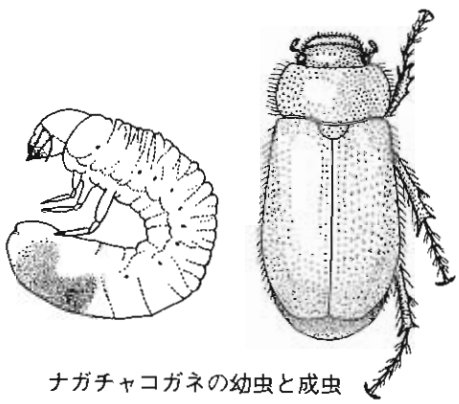
ナガチャコガネは年1世代で，成虫は岩見沢地方では6月下旬から7月上旬に現れます。体長は13mm前後で，名前の通り体は細長く全体が茶色をしています（図）。土の中に産みつけられた卵は3週間でかえり，植物の根を食べて秋までにすっかり大きくなります。土の中で越冬した幼虫は春にはあまり食べることなく，6月に蛹となります。幼虫が一番よく食べるのは秋ですが，この時期に激害をうけた木は翌春になって雪が消え乾燥してくると，急に枯れてしまうことがあり，また枯れないまでも生長が衰えます。

幼虫を薬剤で防除するには，粉剤や粒剤を土の中に混入したり，水和剤を潅入する方法がありますが，恐らく一部の幼虫しか殺すことができないでしょう。とくに春に幼虫を見つけた場合は，もう食害することはあまりありませんから，そのままにしておき，成虫期に防除する方が得策です。

ナガチャコガネの成虫には面白い性質があります。それは，日が沈み夕闇がせまってくると，突如として草むらや木の根もとから一斉に飛びたち，低くゆっくりと飛びまわりますが，すぐに草むらに下り，また飛びたつということをくり返します。この時が防除のチャンスです。そこで夕方，成虫が活動を始める直前に，乳剤か水和剤を地際に近い木の繁みや草花，芝生，雑草などによくぬれるほどに如露で散いておきます。すると必ず薬にふれますから，翌朝になってみれば死体がごろごろと転がっていることになります。薬剤はスミチオン乳剤，オルトラン水和剤などがよいでしょう。

成虫の発生は2週間近くつづきますから，この間に2～3回散布します。成虫の発生初期を見逃さないことが大切ですから，岩見沢付近では6月25日過ぎから，薄暗くなる頃に庭に出て観察し，成虫を確認したらその2～3日後に1回目の散布をします。このあとは成虫の数をみながら3～4日おきに散布して下さい。なお防除は隣り近所の人と相談して一斉に行えば，まわりからの侵入を防ぐことができ，一層効果が上がります。

（副場長　上条一昭）



ナガチャコガネの幼虫と成虫